Andrea & Nikko 05/10

Script!

こんにちは。私はアンドレア・メイシーと申します。ニコ・バウティスタと申します。

Andrea

1. 私たちのキャップストーンのタイトルは「文化の知識が如何に外国語学習への動機づけに繋がるか：日米の大学生の意識調査」です。

2. これがこの発表の概要です。

3. 私たちの研究質問は１）日米の外国語の授業ではどのように文化を取り入れているのか、２）文化は日米の学生が外国語を学ぶためのモチベーションにどのように影響しているのか、の以上です。

4. なぜ私たちがこの研究をしたいと思ったかですが、私達が日本語を勉強したきっかけは日本のアニメや漫画や音楽に興味があったからです。このように文化を学ぶことが外国語の学習への動機に繋がるのではないかと思います。外国語を学ぶ日米の大学生の場合、文化をどのように学んできたか、また如何に外国語を学ぶ目的に繋がっているかを調べたいと思ったからです。

Nikko

5. これが研究背景（はいけい）の概要です。

6. それでは、ここでアメリカでどのように外国語教育が推移してきたかについて要約します。最初は文法、翻訳を重視していました。そして、オーディオ・リンガルが普及し、その後ACTFLガイドラインが1986年に出て以来、如何に実社会でコミュニケーションができるかということが大事にされました。現在はワールド・レディネス・スタンダードに基づき、文化を通して実社会で使える言語を教え世界で活躍できる人材を育成することを目標としています。

Andrea & Nikko 05/10

7. これが ACTFLの言語運用能力基準を表す図です。話す、書く、読む、聞くの４技能に分かれていて初級から卓越級までわかれています。

8. ２０１２年に出たNational Standardsは４（よん）技能ではなく５つのｃ、コミュニケーション、文化、繋がり、比較、コミュニティなどを通して外国語のクラスで何を学ぶかを表記したスタンダードです。

Andrea

9. National Standardsでは「文化の３ｐ」プロダクト、プラクティス、パースペクティブから文化を言語のクラスに取り入れることを提唱しています。

10. ACTFLとNational Standardsはどちらも大事です。さらに、National Standardsはコミュニケーションの3技能をインターパーソナル、インタープリティブ、プレセンテーションに分けています。

11. ２０１5年に改正されたワールド・レディネス・スタンダードはそれぞれの状況に於いてその文化にそくしてコミュニケーションができる能力が重要視され、グローバルに対応できる能力を言語教育で養っていくことを重要視しています。

12. ACTFLのコアプラクティスは授業で外国語を教える際に大事な項目です。９０%以上ターゲットとする言語で授業をします。コミュニケーションを促すための活動と生教材を使います。また、文法はコンセプトとして導入してから練習し、適切なフィードバックを常に与えます。

Nikko

Andrea & Nikko 05/10

13. ここで日本の外国語教育の歴史を簡単に説明します。日本では小学校５年生では週に１回、中学校から週に４回外国語の授業があります。課題となっているのは使える英語力をつけさせることです。現在では暗記、入試のための教育になっている上、授業が英語でできる先生もあまりいないのが現状です。

14. 日本では２０２０年のオリンピックに向けて、使える英語教育に力をいれています。小学３年生から英語を始め、担任の先生が週に1、2、回英語の授業をします。中学校でも英語での授業をすることを奨励し、身近なことが言えるようにすることを目指しています。

15. ２０２０年からは大学入試制度も変わり、年に一回だったセンター入試の回数を増やし、TOEFLのスコアーが必須になります。授業でいかにグローバル社会で必要な柔軟な考え方に対応できる能力をどのように授業にとりいれるかが課題です。

16. モチベーションとは人間性への原動力としてある行動へと駆り立て、目標へ向かわせるような内的過程です。行動の原因となる生活体内部の動因と、その目標となる外部の誘因がもととなるもので外国語を学ぶにはとても大事です。GilbertとLambertは道具的動機づけと総合的動機づけが外国語学習には大事だとしています。またMahadiは内因的と外因的の動機も大事だとしています。

17. 道具的動機づけ、外交的動機づけは卒業要件を満たし、より良い将来の仕事や高収入等を得ることを目的とします。総合的動機づけ、内因的動機づけは学んでいる言語の人と話したい、文化を学びたいなどの総合的な目的から勉強をすることです。

Andrea

18. 文化を学ぶことは外国語を学ぶ上での動機づけになります。ですから今までの文

Andrea & Nikko 05/10

法や単語等言語の構成の知識を学ぶより、如何に実生活で使えるかが学習者の動機につながります。

19. これはAwardと田中の研究結果にも示されています。つまり外国語学習には文化的な教材を使用することがとても大事だということがわかります。

20. 日本国際交流基金の２０１２年と２０１５年の調査結果によると漫画、アニメ、J-Pop等に興味を持ち日本語を学習している学生数が増えています。

21. ファンサブとはファンによって作成されたアニメやドラマの非公式字幕です。ファンサブではジョーク、歴史、食べ物、文脈等の解説ノートがでています。

22. マンガは文法、語彙・導入にもよく使われます。

Nikko　＜研究結果＞

23. それではここで私達が行った研究についてお話しします。この研究に参加した人は日本人３０人、アメリカ人２９人、合計５９人です。オンラインによるアンケート調査でデータを集めました。

24. これから研究結果１についてお話ししたいと思います。

25. いつ外国語の勉強を始めましたか、という質問に対して６０%の日本人は小学校で勉強を始め、４１%のアメリカ人は高校で勉強を始めたと答えました。

26. 外国語を学ぶ時にその外国語の文化を学ぶことは重要だと思いますか、という質問に対して日米の大学生は文化が外国語を学ぶ時に非常に重要だと思っていますが、より多くのアメリカ人が強くそう思っていることが分かりました。

27.「学校で外国語をどのように教えるべきだと思いますか」という質問に対して、アメリカの学生も日本の学生も「私の家族」や「買い物」などの日常的なトピックについて話し合うことができるべきだと思っています。

Andrea

28.「外国語の授業ではどのように文化を教えるべきだと思いますか」という質問に対して、大学生の半数以上は文化のプロダクト、プラクティスとパースペクティブについて話せることが必要だと思っています。

29.「高校の外国語の授業で、文化はどれくらい取り入れられていましたか」という質問に対して、アメリカの学生の約６５%が高校で文化のレッスンがあったと回答しましたが、日本の学生の場合は約４３%にとどまりました。

30.「高校の外国語の授業で一番思い出に残っている文化についての授業は何ですか、という質問に対してアメリカでの外国語の授業には様々な文化体験がくみこまれていることが分かります。

31.今まで取った外国語の授業にはどれくらい文化的な内容がありましたか、という質問に対して、日本もアメリカも小学から大学に行くに従い文化的な内容が増えています。

Nikko

32.それぞれのレベルの外国語の授業で文化的な内容を教えた方がいいと思いますか、という質問に対して両国の学生は初級から上級に進むに従い言語で文化を教えるべきだという考えが強いようです。国別に比べるとアメリカの８割の学生が文化をターゲットの言語で教えるべきだと思っていることがわかります。

Andrea & Nikko 05/10

33. ここで研究質問１の結果をまとめます。過半数の日本の学生は小学校から外国語を学んでいますがその授業にはあまり文化に関しては導入されていないことがわかりました。アメリカでは小学校から外国語を始めた学生は２０％と少なく、高校から学んだ学生が４０％と一番多いようです。高校での授業には文化がある程度導入されていることがわかりました。日本では映画を使って文化を導入する傾向がありますが、アメリカでは料理、行事やお祭り等の文化的な活動を授業にとりいれるなど様々な体験を通して文化を学ぶようです。両国の学生共に、初級から上級に進むに従い言語で文化を教えるべきだという考えが強く、アメリカの８割の学生が文化をターゲットの言語で教えるべきだと思っています。

34. これから研究結果2についてお話ししたいと思います。

35. 外国語を学ぶことにおいて、自分がどんなモチベーションを持っていると思いますか、という質問に対し６割の日本の大学生は「ネイティブと話せるようになるため」と答えましたが、アメリカの学生の場合はそれ以外に「外国語と文化を学ぶため」と答えました。

Andrea

36. 外国の文化を学ぶことは、外国語を学ぶ意欲にどの程度の影響を与えますか、という質問に対して過半数の大学生は、文化を学ぶことが学習習慣にプラスの影響を与えると思っています。

37. 外国語を初めて勉強した時のあなたのモチベーションは何でしたか、という質問に対してアメリカの大学生のモチベーションは「アニメ」でした。一方、日本の大学生は「音楽」と「ひっしゅうかもく」を選びました。

38. では、現在の外国語を学ぶモチベーションは何かに対してはアメリカの学生の場合は「アニメ」から「仕事」に変わっています。また、日本の学生の場合はおよ

Andrea & Nikko 05/10

そ５割が「友達を作りたい」と「将来の仕事に役立つ」に変わってきています。

39. 外国語を学びたいと思った最初の目的は、「変わった」と思いますか、という質問に対して両国の学生は変わったと思っています。

Nikko

40. 「変わった」と答えた人に、勉強の習慣がどのように変化したかと聞くと、約５割の日本の学生がもっと勉強するようになったと答えたのに対し、アメリカの学生はもっと勉強するようになったは３１%にとどまっています。

41. 今までの外国語の勉強の経験を、どのように評価しているか、という質問に対してどちらの国の学生も肯定的な経験をしているが、日本とアメリカを比べると９７%と日本の学生の方が良い経験をしていることがわかります。

42. 外国語のクラスで学んだトピックの中で、モチベーションを高めるために役立ったものは何ですか、という質問に対してアメリカの大学生は、「メディア」と「文化的習慣」「家族・友達」に関するトピックが非常に役立っていると思っています。

43. 一方、日本の学生は、「家族・友達」、「将来の職種」「非言語コミュニケーション」「メディア」、「文化的習慣」などのトピックが役立っていると思っているようです。

44. 外国語をより良く学ぶために、取り入れるべき文化として、アメリカの学生は「文化的な習慣」、日本の学生は「メディアを通しての文化」を学びたいと思っていることがわかりました。

Andrea

Andrea & Nikko 05/10

45. 外国語のクラスで多くの文化を取り入れたら、より多くの学生が外国語を勉強するようになると思いますか、という質問に対して両国の学生のほとんどがそう思うとこたえました。

46. ここで研究質問２の結果をまとめると、日米の学生も外国語の授業では文化を学ぶことでより学ぶ効果が上がり、学習者も増加するという考えを持っていることがわかりました。学習も動機もアメリカの学生は始めはアニメでしたが「キャリア」に繋がるものに変わり、日本人は必修科目から友達や音楽などの「楽しみ」に変わって来ました。

47. それではここでこの研究のまとめをしたいと思います。両国の大学生は外国語を学ぶ上で、文化がとても大切だとしています。日米の学生共に学習が進むにつれ学習目的が変わっていくことがわかりました。両国の学生は言語的な知識よりメディア等を通して友達との会話や仕事で使える言語能力がつくことをのぞんでいます。そのために、文化はとても重要です。ですから生教材を通して体験型文化の学習が外国語教育に望まれると言えます。

Nikko

48. 研究における限界点です。参加者の人数が少なく、過半数の回答者が外国語専攻の学生や留学生だったので結果を一般化することは難しいです。将来の研究課題としては外国語を専攻しておらず、留学をしたことのない学生を調査したいです。また日本の2020年の英語教育リフォームの後に、人々の意見がどのように変わるかも調査したいと考えています。

49. これが参考文献です。
50. <bib pt 2>

Andrea & Nikko 05/10

51. この研究を完成する際たくさんの方々にお世話になりました。どうもありがとうございました。